



きき酒で仙櫻を味わう関係者ら

「丸くて」「しっかりした」「味わいに 純米吟醸酒「仙櫻」蔵開け

10月24日、明延鉱山探検坑道内にある「明寿蔵」で熟成された純米吟醸酒「仙櫻」の蔵開式が行われました。

仙櫻は、山陽盃酒造株式会社（六栗市）の協力を得て平成9年から造られているもので、有機栽培された蛇紋岩米「兵庫北錦」と大屋町横行で採取された氷ノ山自噴水を使って醸造。熟成に適した温度12℃の坑道内で、4月から熟成されてきました。予定販売数は、1升瓶が880本、4合瓶が1130本で、大屋町内の酒販店で販売されます。

山陽盃酒造の壺阪社長は、「丸くてしっかりとした味わいに仕上がりました。地域のために少しでも役立てばと思います。ながら醸造しています」と話しました。



祭りを盛り上げた名役者

吉井区秋祭りで村芝居を上演

9月30日、吉井ソフトボール部（津崎智宏部長）による吉井区秋祭り「村芝居」が同区の井上神社で上演されました。これは、同神社境内に明治中期に建設された芝居堂があり、農閑期に村芝居を楽しんでいたことから、秋祭りを盛り上げようと昭和56年に同部が中心となって復活させたものです。23回目となる今年も「茜に消えた三度笠」を上演。役者と観客のかけ合いが笑いを誘うなど、役者はもちろん脚本や演出、舞台装置にいたるまで部員の皆さんの手づくりで行われた村芝居は、大いに盛り上がりました。



▶多くの人が詰めかけた村芝居

189点の作品を展示

2日間にわたり「兵庫県いけばな展」

伝統文化「いけばな」を通じて、伝統文化の素晴らしさを知ってもらうことを目的に、第18回兵庫のまつりーふれあいの祭典「兵庫県いけばな展（養父会場）」が、10月21日と22日に八鹿体育館とようか武道館で開催されました。

会場には、兵庫県いけばな協会や但馬のいけばな協会各流派、また市内の小学生による「伝統文化子どもいけばな教室」から計189点の作品が出瓶され、2日間で延べ3000人が見事な作品を鑑賞しました。

養父市いけばな協会の三木豊次会長は「多くの方に来場いただき、伝統文化・いけばなの素晴らしさを再認識してもらったよい機会になりました。多くの小学生も参加したこの花展が、地域の芸術文化の振興につながることを願っています」と話しました。



展示された「いけばな」を鑑賞する来場者